

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	7 / 1961 / 29-30
タイトル	研究発表会に参加して
著者名	今田完

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

研究発表会に参加して

2年 今田 亮

1961年10月1日に、第14回青森県小学校、中学校、高等学校理科研究発表会が、「お城のある町」弘前市で開催されました。その発表会に、我々青高生物部からは、動物部門に「鶺鴒に於ける

スラングトン類の日周活動、特に ヨウミジンコについて。」と、植物部門には、「鳶沼周辺に於ける地表面の植物相について。」の鳶沼シリーズを出品しました。その結果、動物部門では、拙しくも弘前中央高校の「ミニスの皮膚感覚について。」に取付けはしたものの、第二位の「会賞」を受賞し、又、植物部門に於いては、他校を押し、堂々と第一位の「教育庁長賞」を受賞しました。

では、発表者として、その発表会前後を著かせていただきます。植物の方はともかくとして、動物の方の発表者は前から3年生の森君が発表することになっておりましたが、発表会が近くなったら(一週間前)森君がその日(発表の日)に公務員の試験を受けることになったので、森君から私にバトタッチされました。そういうことで私は大変驚ろきましたが、それと同時に、「森君の為に」いや学校の為に、又、自分の為に「がんばるぞ」という意気込みがわいてきました。その日(発表に一週間前の日)から、森君や、三年生の人達からいろいろと発表に関する事柄を聞いたりしました。特に森君からは、論文の書き方等を教えられました。それを参考にして論文を書き、森君に見せて、直してもらいました。そして、発表の前の日までに、チャートや標本等を仕上げてもまいりました。特に、発表前日は、チャートを直したり、論文を直したりして大変だった。そしてその日に発表の練習をしました。練習と言っても、森君や、三年生の人達が見ている前で、私が論文を読むのでした。何回も練習しているうちに大体うまく行きそうになりましたが、ちょっと不安になりましたが、「男は友胸女は愛嬌」と言われているので、その日は早めに床につきました。-----

明けて10月1日-----すなわち、発表会のある日です。その日は、いつもより早く起きました。というのは、弘前に行く汽車が、6時58分だったからです。朝飯を食べないで、家を出ました。青森駅に横山君と一緒に行きました。そこで、皆を待つことにしました。まもなく、森君が標本を大切に持って来てくれました。話によれば、森君が新城まで一諸に行くのだそうです。6時45分迄に、先生、その他の生徒が集まりましたが、肝心の一人がまだ来ませんので、汽車に乗って待つことにしました。発車寸前にその人が走って来ました。汽車は私達6人を乗せて、一路、次の駅、新城へと向いました。新城に着くと、森君はここで下車し、次の汽車で青森へ帰りました。ここで中村さん山内さんを採集(?)して一路弘前へ-----

8時に弘前につきました。そこからバスで会場の弘前中央高校へ。受付で、発表題目、発表者を書き、会費を納めて、開会式に出席しました。開会式の後、各部門に分かれて各々の教室に入りました。

動物部門の教室に入って一番初めに驚いたことは、私達を除いては、皆女生徒だということでした。発表は順序に従って進み、最後の私達の発表の番に来ました。私の胸はときめき(?)又、前には女生徒ばかり居るので、大変、あがってしまいました。その為、思うことが思うように言われませんでした。それでも発表が終ってほっとしました。

私達の発表が最後だったので、それが終わった後で、昼食を食べて、表彰式を兼ねた開会式を待つことにしました。表彰式は、物理、化学、動物、植物、地学の順で行いました。その表彰式で、私達の発表は、動物部門の部で第二位を受賞したことは前にも書いた通りです。

私はこれを踏台として、もっと研究して行きたいと思っております。
